



山陽スピリット ニュース No.29

2022(令和4)年11月29日

発行：学校法人 山陽学園 山陽スピリット推進室

上代淑先生の讃美歌集より

～讃美歌第445番の背景

学園資料室 大森 由理
(平成11年山陽女子高等学校卒)

『山陽の校歌は明治31年頃にウィリアム・B・ブラッドベリー作曲の讃美歌第445を採用し、宇野光三郎教師が作詞して制定されたものであるが、ここではその選曲が上代淑によってなされたものであることが判明している』(上代淑研究第3巻、1998年発行)

資料室でこの文献を前に「それではその讃美歌の原譜が見たい。その讃美歌には一体どんな歌詞がつけられていたのだろうか。楽譜は校歌のものそのままなのだろうか。淑先生はなぜこの讃美歌を選んだのだろうか。」という思いが湧きました。今まで、学園内では誰もその原譜を取り上げていないことに気づいたのです。

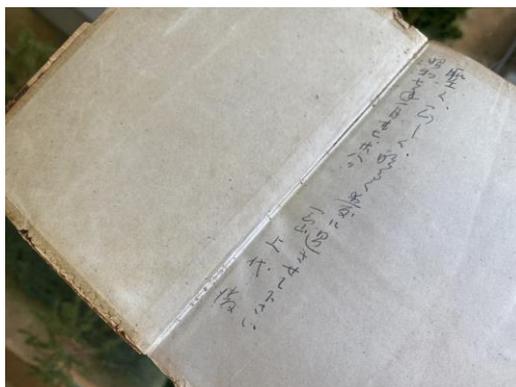
「上代淑先生が使った『古い讃美歌集』があるはず」と情報を得てからというもの、上代淑記念館記念室に展示されている讃美歌集は一冊ありましたが、なぜか第445番は違う旋律でした。アーカイブズ登録資料の中にもなく諦めかけていたところ、ある日偶然にも記念室にあるサイドボードの引き出しより『古い讃美歌集』が見つかったのです。まるで、その讃美歌集から見つけてほしいと現れてきたかのようでした。

○第445番の楽譜

残念ながら、「淑先生はこの讃美歌集を見ながら校歌を選んだのだろうか」という予測は外れました。校歌の制定は明治31年、先生の自筆は昭和7年。この讃美歌集は『縮刷 讃美歌 第一編』と題され、大正12年の初版より20版目の昭和3年のものだったので。しかし、紙を挟んである場所を開くと第445番の楽譜があり、山陽学園の校歌と同じ楽譜を見つけることができました。



『故 上代淑先生 讃美歌 自筆名あり』と書かれた紙のカバーを外した状態



淑先生の自筆『聖く正しく明るく愛に過させてください 昭和七年一月廿七、廿八日岡山 上代淑』

まず、讃美歌第445番は、4つの曲から成ることが分かりました。4つとも『わがたましいを』というイギリスの司祭チャールズ・ウェスレイ(1707~1788)

による詩です。イギリスの讃美歌の中で最も有名な讃美歌の1つだそうです。どの曲も『Faith』(信仰)と題されており、1曲目より『Refuge I』 『Faith』 『Sawyer』 『Refuge II』の順に並んでいます。それぞれ違う作曲家による曲で、山陽学園の校歌は2曲目の『Faith』、William. B. Bradbury(1816~1868)の作曲であることが明記されています。4つの曲から成るというより、おそらく同じ詩があてられた曲を同じ番号にまとめたのではないのでしょうか。



『明治40年発行写真帖』



学園で確認できる最も古い校歌



右は1曲目『Refuge I』、左が2曲目『Faith』校歌の原曲、次頁に『Sawyer』 『Refuge II』と続いていた (※付録参照)

五線譜の間には、トニック・ソルファ(Tonic Solfa)と言って19世紀半ばにイギリスで発明された視唱のための簡易譜があります。これは、日本でも19世紀後半の音楽教育に、組合派の『新撰讃美歌』(1888) ※1にも五線譜の代わりに使用されていたことがあるようです。また『第二百十七の譜に代用すべき譜』とありますが、この讃美歌集の第217番も第445番と同じ『わがたましいを』の詩が使用された曲でした。それだけこの詩が人気だったことも伺えます。

『Faith』の楽譜は、調性も変ホ長調。四声どのパートも、今現在使われている楽譜と全く同じ音。『明治40年発行 写真帖』に掲載された、学園資料室に残る最も古い校歌の楽譜も、全く同じ音であることが確認できました。

○讃美歌集の歴史からわかること

では、なぜ今まで確認した讃美歌にはこの第445番の『Faith』がなかったのでしょうか。インターネットで『讃美歌第445番』と検索しても、他の曲ばかりが出てきます。それには、讃美歌集の種類と版が大きく関係していることが分かりました。

日本における讃美歌の歴史は、カトリックの場合16世紀のキリシタン時代にさかのぼります。プロテスタントの場合1859年日本にプロテスタント宣教師が渡来し、歌集が誕生したのが1874 (明治7) 年。各教派別に、8種類の歌集が出版されました。

その中でも『組合派』は、関西を中心に宣教師団アメリカン・ボードによって伝道を開始し日本組合教会を結成。1882 (明治15) 年出版の『讃美歌並楽譜』は、日本で最初の四部合唱形式の譜面つき讃美歌集であると言われており、のちに明治期の最も重要な讃美歌集『新撰讃美歌』(1888)としてまとめられました。新島襄もこの派であることから、幼少から大阪に移住し梅花女学校で学んだ上代淑先生は、この派の讃美歌集に親しんでいたのではないかと考えられます。 ※2

重要なのは、その後1903 (明治36) 年に出版された日本で最初の共通讃美歌集『さんびか』です。1909 (明治42) 年に第2編が刊行されてからは、第1編と第2編に分けられ、作者紹介を含む第1・第2合本も発行されました。1931 (昭和6) 年の改訂版が出版されるまで『明治36年版』として約30年間日本全国の教会で用いられ、日本における讃美歌集の礎となっています。上代淑先生が使われていた『古い讃美歌集』は『縮刷 讃美歌 第一編』と題されており、『明治36年版』の第1編ということが分かりました。縮刷版と大きさも15cmほどなので、淑先生の日々に寄り添って使われていた讃美歌集なのではないでしょうか。大正12年の初版より20版目の昭和3年と終戦前のもので、戦火を逃れた旧上代邸にあったのではとも考えられます。

讃美歌集は、『明治36年版』が1931 (昭和6) 年に大きく改訂出版され、おそらくその際に第445番の『Faith』『Sawyer』は省かれたようです。だから、校歌の元になった第445番の調査は難しかったのでしょう。その後、主なものは1954年 (昭和29) 年『讃美歌』、1997年 (平成9) 年『讃美歌21』と出版されそれぞれに収録曲や番号も違うため当然です。『古い讃美歌集』と表現されていたことも納得しました。

○アメリカの讃美歌

さて、上代淑先生がアメリカのマウントホリヨーク大学に留学されていたのは1893 (明治26) 年～1898 (明治31) 年。アメリカの讃美歌は主にイギリス讃美歌の影響下にあり、ちょうど淑先生が留学されていた19世紀後半は、創作讃美歌が多く作られアメリカ独自の「福音唱歌」ができた頃でした。明治31年に淑先生が帰国され校歌は制定されましたが、『明治36年版』讃美歌集はまだ未出版のため、第445番というのは後付けです。淑先生がどの讃美歌集・楽譜を見てどのようにこの曲を選曲したのかは依然不明のままですが、幼い頃関西でアメリカの讃美歌に親しみマウントホリヨーク大学で様々な讃美歌に触れ合った経験から、アメリカの作曲家ウィリアム・B・ブラッドベリーの曲を選曲したのは自然の流れだったのかもしれませんが、『わがたましいを』は英

語で『Jesus, lover of my soul』。淑先生はきっと英語でこの讃美歌を歌っていたに違いありません。

最後に、実は讃美歌の楽譜が校歌と1つだけ違う部分があります。それは、最後の「アーメン」という箇所です。「アーメン」はヘブライ語で「そうなりますように」という意味がありますが、讃美歌に込められた想いや祝福の祈りが本当にそうなりますように、ということだそうです。開校の趣旨が、「日本の女子教育なのだから外国の直訳的なものであってはならない」「学校を宣教の場とせず」というものであったため校歌にはありませんが、この部分に祈りを込めて心の中で歌ってみるのもいいかもしれませんね。是非ピアノで弾いてみてください。とても静かで美しいです。



4度から1度への変終止 (アーメン終止)

2拍目にファの経過音があるのもこの讃美歌の美しいところ

※1 日本基督一致教会と日本組合基督教会が選任した委員によって編集、出版。島崎藤村など日本の近代文学にも影響を与えてきた。その後の日本における讃美歌集のルーツ。

※2 上代淑先生の父、上代知新は新島襄に洗礼を受けた。淑先生自身も宣教師デフォレストにより洗礼を受け、讃美歌やアメリカ民謡に親しんでいた。讃美歌の普及に尽力したG.オルチンの音楽指導も受けた。

~~~~~  
この度、上代淑先生のお孫さんにあたる上代万里江さんが日本基督教団出版局に問い合わせをして下さり、資料提供にご尽力くださいました。この場をお借りして感謝申し上げます。

\*付録: 左が2曲目『Faith』校歌の原曲

The image shows two pages of a musical score. The left page is for the song 'Faith' by William B. Bradbury (1846-65), with an alternate tune for No. 217. The right page is for 'Refuge' by Joseph Perry Holsbrook (1864), with an alternate tune for No. 217. Both songs are in 7/7 time and have lyrics in both Japanese and English. The score includes vocal lines and piano accompaniment. The Japanese lyrics are written vertically, and the English lyrics are written horizontally. The page number '445' is visible on the right side of the score.

\*\*\*\*\*「山陽学園アーカイブズ」について\*\*\*\*\*

山陽学園に係る歴史的資料を収集・保存・リスト化し、検索システムにより閲覧することができる。現在、8000点を超える資料が登録されている。中高の南館一階を「学園資料室」とし、資料の整理保管に努めている。将来的には、企画展示も計画している。